

平成24年度第2回奈良県社会教育委員会議（概要） 〔報告書〕

- 1 日 時 平成25年2月27日（水）9：30～11：00
- 2 場 所 奈良県庁教育委員室
- 3 出席委員 委員名簿記載のうち、大寺和男 岡田龍樹 岡本真寿美 神田義隆
杉井潤子 藤堂真紀 中島祐子 藤田謙治 藤野良次 宮坂靖子
森田真康 山田高福（敬称略） 12名
- 4 内 容 (1) 開 会 あいさつ 奈良県教育委員会 富岡教育長
(2) 委員紹介
(3) 議 事



地域と共にある学校づくりの推進（プレゼンテーション）
平成25年度奈良県社会教育関係事業の概要について
平成25年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について
「地域と共にある学校づくり」の一層の推進について

5 委員からの主な意見について

奈良モデルの積極的な取組に対して評価しています。

地域教育力を高める取組をされているのは、方向性として正しいし、素晴らしいと思う。

いじめ等様々な問題が多い中、保護者の一層の役割が非常に大切になり、いろんなことが求められてくる。奈良モデルにしても保護者が入って行って家庭教育の見直しにつなげていくという方向性もあるので、補助金の全般的な見直しに関連して減額するのは違うのではと考えます。

かねてから、学校・地域連携事業に公民館がかかわりたいという考えを持っています。奈良県公民館連絡協議会でも、学校・地域連携事業をテーマとした公民館職員の研修を実施している。地域の一員として公民館を学校・地域パートナーシップ事業の中に入れていきたいと考えている。公民館の持つネットワーク、活動グループを活かして子どもの課題解決を図りたい。

近畿公民館大会奈良大会でも公民館と学校の連携をテーマにして取り組んでいきたい。学校コミュニティ＝奈良モデルに大変興味を持っています。

人権のまちづくりのコミュニティサイズは小学校区単位が一番望ましいと思っている。そういう意味から、奈良モデルの取組は地域、まちづくりを含めて考えていける取組であると思う。

人権のまちづくりそのものは、子ども抜きには考えられないので、子どもを巻き込んだ地域づくりになっていかなくてはならない。その意味からも奈良モデルを大いに期待したいと思っているので頑張ってください。

